—編集後記—

先日，AGU（American Geophysical Union）からメールが届きました．AGU が刊行している学術誌の定期購読についてのお知らせで，電子ジャーナルへのアクセス権付きの印刷媒体購読サービスの提供は来年から停止する，というものでした．

このメールが届く 1 週間程前，AGU から送られてきた Water Resources Research（WRR）を見て驚きました．大きさは同じですが，レイアウトが横置きに変わっていたのです．これまでも乱丁があったとかで同じ巻が 2 度送られてきたこともありましたので，どうせ，印刷ミスか何かだろうと思って開いてみると，これまでの縦置き 2 ページ分を縮小して横置き 1 ページに収めてありました．字はかなり小さく，まだかろうじて遠視ではない私の目でもかなり読みにくい印象です．

同封されていた手紙には，「印刷費用の高騰に対処するために，このように体裁を変えた」というようなことが書いてありました．コストがかかる紙媒体による発行部数をできるだけ縮小し，電子ジャーナルにウェイトを移していくのでしょう．

日本の学会については，研究講演会の要旨集は別として，紙媒体の論文集の発行を停止または縮小する，という話はあまり聞いたことがありません．しかし，電子ジャーナル化は進んでいるので，紙媒体の部数縮小の傾向は，いずれ国内でも進むだろうと思います．景気は悪いし，会員数は増えないし，賛助会員も寄付も減る一方 ... となれば，何らかの経費節減がさらに必要になるでしょう．お金がかかる印刷費の圧縮は効果的な対策です．

こういった論文集の電子ジャーナル化のおかげで，ここ数年，論文はずいぶんと手に入れやすくなりました．どの学術誌についてもバックナンバーも含めて電子ジャーナル化が急速に進み，PC からキーワードを打ち込んで検索すれば，大概のものは見つかります．PDF ファイルがダウンロードできれば，保管スペースも節約できます．興味がある研究テーマの論文が出れば，メールアラートで知らせてくれます．

一方，大学の図書館は，海外の学術出版社が提供する電子ジャーナルサービスに莫大な契約料を支払っています．しかも，すべての論文集の論文をダウンロードできる訳ではありません．すぐにダウンロードできない論文は，他大学や他の研究機関に文献複写を依頼するか，個別の論文にお金を払ってダウンロードすれば入手できますが，一度電子ジャーナルの便利さを知ってしまうと，とてつもなく面倒くさく思えます．

契約料は年々高騰しており，今年読める電子ジャーナルが来年も読める保証はありません．一度お金を払って手に入れた紙媒体の論文集は，紛失や廃棄をしない限り永久に閲覧できます．しかし，電子ジャーナルは，もし契約料を支払えなくなれば，そのジャーナルは図書館から全て「消失」します．

個人で購入してきた WRR は，ある日突然読めなくなることが怖くて，毎年，紙媒体も送ってもらっていましたが，実際は，ほとんどの場合，電子ジャーナルにアクセスして読んでいます．来年以降は，紙媒体の購入は考え直す必要がありそうです．

「論文を読むこと」については，「利便性」と「確実に読めること」との二者択一になっては困ります．何とか「便利で確実に読める」対策を考えておく必要があります．

平成 14 年に，当時，岡山大学におられた成岡市先生にお誘いいただいて本学会に入会し早 8 年．今号では，土壌物理にはやや門外漢気味の私が編集後記の執筆を仰せつかりました．

雑文，お許しください．

近森秀高（編集委員）